

生工研育成グラジオラス

「プリンセスサマ-イエロ-」栽培マニュアル

みんなで進めよう

茨城農業改革

農業総合センタ- 生物工学研究所
園芸研究所

（「プリンセスサマ-イエロ-」は旧「ひたち3号」です）



1. 品種特性

- 1) 浅緑黄色の花弁の先端に鮮やかなオレンジ色が発色する中輪系品種。
- 2) 上向き咲きのユニークな花型が特徴。
- 3) トラベラーよりやや早生。季咲きで3～5日程度早咲き。
- 4) 病虫害抵抗性はトラベラーと同程度。穂焼け・葉焼けの発生は少ない。
- 5) 促成、季咲き、抑制いずれの作型でも栽培可能。

2. 収量目標：2,500～3,000本/a

3. 球根の準備

- 1) 2～5等球で、10a当たり2.7～3万球が目安です。
- 2) 購入した球根はすぐに箱から取り出し、腐敗球を取除き、ホーマイ水和剤に浸漬（200倍液30分）または粉衣（球根重の1%）します。
- 3) グラジオラスアザミウマ防除のためにオルトラン水和剤に浸漬（1,000倍液10分）します。
- 4) 抑制作型用球根は、球根消毒後2～4の冷蔵庫で、過湿を避けて貯蔵します。

4. 定植準備

- 1) 土質は特に選びませんが、日当たり、排水の良い圃場を選定します。
- 2) 保水、通気性を良くするため、プラウでの深耕や有機物の投入（2～3t/10a）を行います。水田では過湿を避けるため高畝とし、暗渠や明渠を設置しましょう。
- 3) 同じ圃場での作付けは4～5年間避けます。やむを得ず連作する場合は、土壤消毒を行います。水田での栽培を積極的に取り入れ、イネとの輪作（2年間は続けてイネを作る）を行う等の対策をとるようにします。

5. 施肥

- 1) pH6.0を目標に土壤改良材を投入します。
- 2) 元肥は定植15日前までに施します。

- 3) 追肥は本葉2～3枚頃と本葉4～5枚頃、肥料が不足気味の時に施用します。

標準施肥量（単位：kg/a）

成分	総量	元肥	追肥	
窒素(N)	1.5	1.0	0.25	0.25
りん酸(P ₂ O ₅)	2.0	2.0	-	-
カリ(K ₂ O)	2.0	1.5	0.25	0.25

6. 定植・栽培管理

- 1) 定植床は90～120cm幅とし、株間15cmの6～8条植えとします。4等球以下の小球では多少狭く、ハウスやトンネル栽培では株間を広くとります。
- 2) 高温期の定植では、冷蔵庫から出庫後、球根を日陰に1～2日置き、高温に馴化させてから定植します。
- 3) 発芽不揃いにならないように、定植後に十分灌水します。
- 4) 半促成栽培では定植後にマルチを張り、発芽後に穴をあけて芽を出します。1～2葉期と5～6葉期は低温によってブラインドになりやすいので保温に注意します。発芽までは日中30℃、以後は25℃を目標に、出芽以降は十分に換気します。トンネル除去は晩霜の無くなる頃の無風曇天日に行います。
- 5) ハウス抑制栽培では、新しいビニールを10月中旬頃までに被覆します。大球を用いた場合は、1球当たり2～3芽発芽するが、光線量確保のため必ず1芽に整理します。
- 6) 本葉4～5枚頃、土寄せやネット張りを行い、到伏を防止します。

7. 病虫害防除・生理障害

- 1) 健全な球根を用い、連作を避け、窒素肥料をやりにすぎないようにします。また、密植せず、排水を良くし、残渣は適切に処理します。
- 2) 赤斑病、灰色かび病にはポリオキシシンAL水溶剤（2,500倍）を散布します。

8. 収穫・出荷

- 1) 切り前は、第1～2小花の蕾が見え始めた頃ですが、高温期には堅めに切ります。
- 2) 50本箱で出荷します。

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス半促成	保温											球根サイズ
トンネル半促成	□（定植）———■（出荷）											2～3等球
露地季咲き	□（定植）———■（出荷）											2～3等球
露地抑制	□（定植）———■（出荷）											4～5等球
ハウス抑制	球根冷蔵貯蔵 □～順次定植～□——■～順次出荷～■											2～3等球
	———球根冷蔵貯蔵———□———■2～3等球											

<問い合わせ先>

生物工学研究所 果樹・花き育種研究室 電話0299(45)8330
園芸研究所 花き研究室 電話0299(45)8341

記載の登録農薬はH17.4現在のものです。
農薬は適正な使用を心がけましょう。